

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2470100435
法人名	有限会社 すずらん
事業所名	グループホーム すずらん
所在地 (電話番号)	桑名市大山田2丁目7-11 (電話) 0594-33-3671
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 11 月 28 日(金)

## 【情報提供票より】 (H20年10月30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	7 人	常勤 5人, 非常勤 2人, 常勤換算 3.1人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷 金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

### (4) 利用者の概要( 10 月 30 日現在)

利用者人数	6 名	男性	2 名	女性	4 名	
要介護1		2 名	要介護2		1 名	
要介護3		名	要介護4		3 名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	87.5 歳	最低	75 歳	最高	101 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひがし胃腸科 笠井内科 山本総合病院 古田医院
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

池や散歩コースの有る、大きな団地の一角に位置する一般住宅と変わりのない建物の二階建てで、デイサービス併設のグループホームである。代表者の地域に貢献する基本姿勢で、地域雇用と地域福祉を連動させた「その人らしさを大切に」という理念に基づき、立ち上がり当初から変わらない職員を中心に、「のんびりと、個人の生活歴を尊重した」支援がされている。日常的には、散歩や行事等で知り合いの多い地域の人達との交流を重ね、地域に溶け込んでいる様子が見られる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「理念」については、法人全体とは別にグループホーム自体の理念が職員を中心として検討され、新たに明示されている。「鍵」を掛けない実践では出入りの時のチャイムで知らせる方法で、職員の気付きで対応出来る様、工夫して改善されている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p>
	<p>職員と施設長と項目毎に話し合わせ、実態に基づき実施されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>利用者は介護レベルの変化から参加されていないが、家族や自治会、地域包括支援センター、市の高齢福祉課の参加により二ヶ月に一度の間隔で開催されている。会議の内容は、毎回テーマを考え話し合わせ、支援に反映している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時に気楽に話して頂ける様に職員を含め「雰囲気づくり」を心がけており、運営推進会議に於いても家族の意見を積極的に聴く機会を設けている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域に貢献する基本的な姿勢で、日常的には散歩や地域の行事に参加したりして、地域に溶け込んでいる。又、小学校のSOS場所に指定されており、子供が気楽に集まれる場所となっている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念を、このグループホームでも明示していたが、職員と共に、更に地域密着を意識した「その人らしさを大切に」を基本に考え、昨年新しくつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新しい基本理念「その人らしさを大切に」について、皆が揃う昼食時などに「尊厳」などについても話し合い、日々の実践に反映している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に貢献する事が代表者の強い思いとして職員にも伝わっており、日常の行動として散歩や、地域の行事などに参加して交流を図っている。小学校のSOS拠点としての明示もされ、時々子供が利用者と遊びに来ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義については施設長を交え話し合われており、昨年度の外部評価を活かした改善として、「理念の見直し」「鍵を掛けない方法」についても、改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は色々な意見を聞ける重要な機会として位置づけられており、自治会、地域包括支援センター、市の職員、利用者の家族が参加して事業所からの実態報告や、それに対する意見を聞きサービスに活かしている。会議内容はその都度テーマを設定して、二ヶ月間隔で行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の高齢福祉課や地域包括支援センターの職員が随時訪れ、サービスの実態等について意見交換がされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「すずらんだより」が二ヶ月に一度発行され、家族に様子が伝えられている。一人ひとりの様子については、家族の来訪時や電話で報告されている。金銭管理については、それぞれ内容がノートに記載され、家族の来訪時に確認のサインを受けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に家族が気楽に相談出来る「雰囲気づくり」に努力しており、不満や意見があれば直ぐに対応している。外部者へ表せる機会として、重要事項説明書に記載し、契約時には説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は立ち上がりから変動が無く、40代から60代の女性で、馴染みの代表者や職員が支援している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は40～60代の女性で、法人内の研修や外部研修に参加しており、その内容はミーティングに於いて共有化されている。法人としては、資格取得に応じた助成制度が有り、管理者は外部研修の案内を知らせている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームの交流会は無いが、相互訪問が行われている。又、三重県の福祉関係の会合に参加して情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最近新しい利用者は無いが、法人内のデイサービスからの移動者を基本にしており、殆どの利用者は職員と馴染みのある方が多いので、家族からの安心感がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来る限り趣味や生活歴の似た利用者が、法人内のグループホーム毎に過ごせる配慮がされており、職員と共に読書や和歌などを共に学びながらの関係がつけられている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時のアセスメントシートに記載されている本人の希望や想いに基づき、職員で話し合いながら支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時のアセスメントシートや、家族との話し合いを基に施設長と職員の意見を反映し、利用者一人ひとりの目標を決め作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書に基づくモニタリング記録と一人ひとりの経過記録が記入され、大きな変化が生じた場合は家族と相談しながら計画書を見直ししている。その他の場合は、基本的には三ヶ月ごとに見直しされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院した場合は、見舞いを兼ねて洗濯物の処理をして家族から感謝されている。又、買い物等希望に応じて柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が、かかりつけ医を利用しており、定期健診等が適切に受けられる様に支援している。又、法人としての契約医院との関係を築きながら、随時往診に来てもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族とはターミナルまで看る事を基本に話している。事業所の方針としては、最終段階で医師、看護師が同行して自宅で最後を迎える様に決めており、職員との意志の共有ができています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	随時、個人情報の取り扱いに関する勉強会を法人内で行い、職員の意識付けに務めている。又、「理念」の一つに「やさしい心」が明示されており、言葉かけや対応に気配りしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜の就寝時間は自由にして、一人ひとりに任せている。日中は「じっと」見守りながら自由に過ごせる様にその人の「ペース」に任せている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介護レベルが変化してきている為、準備や後片付けの出来る人は少ない。昼はデイサービス利用者の人と一緒に、職員は利用者のサポートに徹しており、一緒に食事はしていない。食事内容は職員の自慢でもあり、美味しく廉価である。	○	利用者の介護レベルの変化があり、サポートを要する人が必要である事は理解できるが、一緒に食事する事に意義もあり、職員の多い日とか、食事内容により一人でも二人でも、共に食事する機会に挑戦する事が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前はデイサービス利用者となっており、グループホームの人は二日に一度の割合で午後に入浴している。特に希望があれば午前に対応する時もある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	読書や和歌を詠んだりして、それぞれの趣味に合わせて過ごしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くに池の周りに造られた散歩コースがあり、ほぼ毎日出かけている。買い物は車で出かける時もある。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昨年からは玄関に「鍵をかけない」実践に取り組んでおり、玄関には出入りが分かる「センサー」が取り付けられている。代表者の考えとしては、外に出た人を職員が見守っている間は、中がその分手薄になり心配である為、地域の方のボランティアによる見守りが出来ないかについて今、地域の方と話をすすめている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に二回の避難訓練を実施している。運営推進会議では地域の協力が得られるように働きかけている。		



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は1400～1600カロリーを目安に、水分は800ccを目安に確保しており、法人の栄養士に10日おきに内容を確認してもらっている。又、柔らかさや、キザミ食については一人ひとりの能力に応じて対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は、近所の住宅と変わり無く違和感が無い。食堂はデイサービス利用者との共同利用となっている為少し狭いが、大きなガラス戸で外の様子がよく見え、明るく季節感が感じられる様になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は造り付けの衣類入れとベッドが有り「スッキリ」している。テレビは各部屋に備え付けられて自由に楽しめる様に配慮されている。好みの物は自由に持ち込まれている部屋もある。		